

NPO法人日本森林ボランティア協会 呼子高原での森林作業に同行取材

& 日南町の森林林業についてプレゼンをしました

2014年4月26日～29日、日南町呼子のYMCA呼子高原センター・キャンプ場にて、NPO法人国際ボランティア協会（滝口敏行会長）の春の森林ボランティア活動が行われました。フォレストアカデミー・ジャパンでは、27日の森林作業に職員が同行、夕方からのバーベキュー食事会の際には狩野理事長も現地に合流し、日南町の森林林業の現状と課題についてのプレゼンが行いました。

NPO 法人森林ボランティア協会について（協会 HP より）

NPO 法人森林ボランティア協会は、自主的に森林づくり（森林整備）に参加し、自らの責任において判断し、行動する市民または市民グループの一員です。

そして、その活動を通して学んだことを広く市民に伝え、市民参加の森林づくりの輪を広げていく役割を担うものです。

森林ボランティアの出発点はあくまでも、森林づくりへの自主的な参加であり、その動機や関わり方もさまざま、対象となる森林も多様ですが、森に入って自発的に作業をするという点においては共通性をもっています。

私たち森林ボランティアが行う作業は、量的にも質的

にも限界があり、その成果は必要とされている日本の森林のほんの一部にすぎません。そのことを私たちはよく認識し、行動する必要があります。

その上でボランティアとしてできること、例えば、森林の整備には、長期的継続的に森林で労働する林業従事者が絶対必要なことや国産材を見直し、もっと活用すること。

農山村の人々と都市住民との間を取り持つ仲介者、伝達者としての役割を担うこと。さらに、21世紀における森林文化の新しい担い手となることなどが私たち森林ボランティアに期待されています。

森林の整備は、これまでのように山村の人々にのみ押しつけるだけではなく、その恩恵を最も多く享受している都市住民が、山村の人々や森林林業関係者、行政関係者たちと協力しながら取り組まなければならないのであり、それはまた、都市住民の責務でもあります。



炭焼きの様子



滝口会長（左）、かつみや宮本氏（右）